

特259

528

野宮

昭和改訂版
肉三

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

始



野宮



(梗概) 諸國一見の僧、洛陽の名所舊跡を巡歴の後、黒木の鳥居に小柴垣、寂り立てる野宮の舊跡に到りたるに、忽然として一人の女現れ、我昔を思ひ御神事をなす所よ、來り給ふは憚りあり、とくく歸り給へとて、往昔光源氏の此の所にて御息所と語り給ひたる事なと物語り、やがて我こそは其の御息所なりと、又夢の如く鳥居の陰に隠れ失せぬ。僧は夜もすがら其跡を弔ふ所に、いづくともなく車の音すと見れば、御息所の靈再び現れ給ひて、加茂の祭の日、葵の上と車争ひて人だまひの奥に押しやらし古事を語り、さる辱しめをうけしも、思へば罪の報いなるべく、晴がたき忘執を拂ひ給へと、舞をまひ、あたりの風情をふつかしみ、松虫の音りんくとして風茫々たる夜すがら、また車に乗りていづくともなく立ち去れりとなり。

シテ 女
 後シテ 六條御息所
 ワキ 旅僧
 所 山城國嵯峨
 季 秋

野宮

^詞是ハ新不任乃僧よてハ我ハ程ハ都小
 出ひて洛陽の寺社残りなく海^海廻りてハ
 又秋も来つゝこに成ハバ嵯峨^{嵯峨}の才也
 うーくハ程よ唯今^今海山へと志ハ^志是^是なる
 歳を人おとハ野宮^{野宮}乃旧跡とや中ハ

程よサシ上さきあり見せしやとひひ禾我共
 旧詠みよきてこれ思ふの多居小葉埜
 昔に誓ひぬみ根ありトかた時をいよ糸
 里あひて稀カル中ぞあり難き伊勢乃
 神垣隔たて法のまぬれ乃志にまよ尋
 く交断んともまぬはゆふくト歌く

次第
上花小測トしト神のまのト秋より後わ
 いのねんサシ上おトとあま拍乃淋トき秋
 昔て程志るまけ神のまぬ身を碎トきたるま
 夕まぐれん乃色公をのづらト子種トれむふ
 程まトく妻ふる身乃習トひう形ト歩人トて
 志くね年トふ昔れ跡よ立海トりト赤ト神れト

やろ敷のまぐさ〜秋更〜身ニ
志むらうせ清く思ヤラ入ハ古ハを何とぞぶ
乃チ昔の夜ハまて〜とあ〜ぬかりの世は行
久ニ家ニ〜うニ招ルたルまキ〜わ我ハけハ本ニ林ニ名ニ
陰ハよハあハ〜くニ古ハをハぶハこハ〜んハをハまハまハのハおハまハあハお
いハとハをハあハめハけるハ女性ハ一人ハ魚ハ筋ハと〜してハあり

後ハ小ハうハ〜しハ〜
車ハ終ハぬハまハしたハ昔ハをハ思ハひハ〜年ハ〜人ハ〜
志ハ〜將ハ〜
らハまハ〜んハ〜
後ハ小ハうハ〜しハ〜
車ハ終ハぬハまハしたハ昔ハをハ思ハひハ〜年ハ〜人ハ〜
志ハ〜將ハ〜

上
 謂... 女... 事... や... 一... 一... 光... 源... 氏... け... け... け...
 上
 上... 上... 上... 上... 上... 上... 上... 上... 上... 上... 上...
 上
 上... 上... 上... 上... 上... 上... 上... 上... 上... 上... 上...

上
 上...
 上
 上...

今持給ふ榊の枝も昔も好しぬるよ
なふ 昔にうらぬまぞとい榊のこころ
常盤乃陰の 森れ志し道秋くれ
紅葉うつちり 浅草ぐるまを 枯
乃昔も葉もあも 誓いのまもろく 結
か 其の長月の十日七日はけ

ふも好しにたり 物もろくや小葉
垣いと仮物の位住居今も火焼屋のうら
りなる光りのあもひ中よあるまや外
よんえつらんあ 淋一宮所あまひ
け文取 榊と清息所の心事 妻は物持
ゆへ 押 け清息所と中の桐壺乃帝此

上 同 赤

清^ヒ光^ナ前^ノ坊^トと中^ノま^リりーに^ハ時^ヲめ^ク花^乃
 香^ニと^シ妹^ノ背^ノの^ハ浅^クく^ハま^りー^ハお^な
 會^ハ若^ク定^メ離^レ乃^ハ習^ヒひ^キま^りも^ハ驚^ク
 一^ハや^ハ愛^レ世^ト福^ナく^ハま^り結^ビひ^{かり}
 一^ハお^もあ^ぬ元^ハ此^ノ歌^ノ 日^ニ光^源氏^乃わ
 一^ハお^なも^思ひ^くよ^ハ行^通ふ^ハん^ノ末^ハ

ち^ハと^ハあ^ん 又^ハ結^ビの^ハ中^ノま^りー^ハに^ハ赤^ハ
 一^ハは^ハく^ハま^りお^なま^りが^ハお^なひ^ハ果^結ひ^ハ使^ハを^ハけ
 一^ハま^りの^ハお^なふ^ハ入^レぬ^ハ清^ハん^ハと^ハ物^ハあ^なれ
 一^ハな^ハの^ハま^りや^ハ秋^ノの^ハ花^ハを^ハと^りへ^ハ使^ハれ^ハま^り
 一^ハ色^ハ枯^レふ^ハ松^ノ吹^ハ風^ノの^ハひ^ハま^りと^ハし^ハも^ハお^なひ^ハ記^ハ
 一^ハ乃^ハま^り秋^ノ乃^ハ出^レし^ハひ^ハも^ハ果^ハあ^なー^ハか^ハく^ハて^ハ君^ハ

曲中

ヤラ

ヤラ

ヤラ

愛ふま^{ヤア}あご^{ヤア}きた^{ヤア}あぬ^{ヤア}ひつ^{ヤア}情を^{ヤア}うる^{ヤア}ち^{ヤア}
ね^{ヤア}む^{ヤア}此^{ヤア}詞^{ヤア}の^{ヤア}語^{ヤア}も^{ヤア}ら^{ヤア}こ^{ヤア}乃^{ヤア}は^{ヤア}ん^{ヤア}此^{ヤア}肉^{ヤア}ぞ^{ヤア}衣^{ヤア}
な^{ヤア}侍^{ヤア}後^{ヤア}か^{ヤア}つ^{ヤア}の^{ヤア}侍^{ヤア}枝^{ヤア}志^{ヤア}も^{ヤア}ふ^{ヤア}か^{ヤア}
ま^{ヤア}て^{ヤア}川^{ヤア}波^{ヤア}乃^{ヤア}身^{ヤア}を^{ヤア}浮^{ヤア}れ^{ヤア}よ^{ヤア}る^{ヤア}を^{ヤア}ま^{ヤア}ん^{ヤア}乃^{ヤア}
水^{ヤア}に^{ヤア}流^{ヤア}さ^{ヤア}ま^{ヤア}て^{ヤア}向^{ヤア}後^{ヤア}も^{ヤア}鈴^{ヤア}鹿^{ヤア}川^{ヤア}八^{ヤア}十^{ヤア}深^{ヤア}の^{ヤア}
波^{ヤア}よ^{ヤア}ぬ^{ヤア}ま^{ヤア}し^{ヤア}く^{ヤア}ま^{ヤア}侍^{ヤア}勢^{ヤア}と^{ヤア}誰^{ヤア}ら^{ヤア}お^{ヤア}も^{ヤア}ん^{ヤア}の^{ヤア}

云乃^{ヤア}ま^{ヤア}ぢ^{ヤア}ゆ^{ヤア}く^{ヤア}と^{ヤア}も^{ヤア}例^{ヤア}た^{ヤア}ま^{ヤア}ぢ^{ヤア}揚^{ヤア}茂^{ヤア}
親^{ヤア}と^{ヤア}子^{ヤア}此^{ヤア}竹^{ヤア}の^{ヤア}於^{ヤア}路^{ヤア}よ^{ヤア}赴^{ヤア}き^{ヤア}一^{ヤア}ん^{ヤア}社^{ヤア}根^{ヤア}
たり^{ヤア}ま^{ヤア}れ^{ヤア}ま^{ヤア}上^{ヤア}実^{ヤア}屋^{ヤア}謂^{ヤア}を^{ヤア}さ^{ヤア}う^{ヤア}く^{ヤア}み^{ヤア}唯^{ヤア}人^{ヤア}
あ^{ヤア}ぬ^{ヤア}ゆ^{ヤア}ら^{ヤア}ま^{ヤア}い^{ヤア}を^{ヤア}名^{ヤア}を^{ヤア}名^{ヤア}を^{ヤア}ま^{ヤア}ふ^{ヤア}た^{ヤア}ま^{ヤア}へ^{ヤア}や^{ヤア}
名^{ヤア}を^{ヤア}と^{ヤア}も^{ヤア}ち^{ヤア}ひ^{ヤア}ま^{ヤア}ま^{ヤア}い^{ヤア}身^{ヤア}と^{ヤア}て^{ヤア}羽^{ヤア}津^{ヤア}石^{ヤア}此^{ヤア}も^{ヤア}
あ^{ヤア}ん^{ヤア}ま^{ヤア}い^{ヤア}ち^{ヤア}を^{ヤア}ま^{ヤア}い^{ヤア}ち^{ヤア}を^{ヤア}ま^{ヤア}い^{ヤア}は^{ヤア}ら^{ヤア}

夕々もあき身ぞとさむおゆへや 同上
 夕とまけけらふ一きもあむいせむなる
 くも 同上 たるまて久しだ詠乃名の 同上 日息
 も ヤア 我なりと 同上 夕音の秋は風 ヤラ 茂
 木のま乃夕附 ユク 寂出なる木の シタ 下れ
 木 ヤラ 此も居 ヌ 暮二相ふ ユ ち隠れて シ 失ふ シ 暮り

詠立かくき失ふ 中入 上 ワキ 所 ノ あり ニ 茂 ト 茂 ニ
 木 ト 陰 ト の ト 昔 ト 夜 ト 一 ト 回 ト 一 ト 笑 ト なる ト 草 ト 延 ト
 心 ト ひ ト ち ト の ト へ ト て ト 相 ト 終 ト 後 ト 以 ト 詠 ト を ト ぞ ト ふ ト 妙 ト あり ト や
 一 ト セ ト ス ト 野 ト の ト こ ト や ト 秋 ト の ト 子 ト 種 ト なる ト 花
 車 ト の ト 音 ト も ト 昔 ト は ト 何 ト の ト 音 ト なる ト あり ト ワキ 上 ト あり ト なる ト や
 夕 ト の ト 光 ト も ト 出 ト なる ト 車 ト の ト 音 ト 此 ト ち ト う ト づ ト く

二二、詞
 方をいんれが細代の下篇思ひひらけさほ
 みる様なり今ハ歎ふ所もなき清息新ふ
 こま一浦ひらけとあまいら成車やん
 して
 いうなる車とせむせ給へむひぞ出るせい
 小へ賀茂のふら車あそむひらけ
 そと白き乃 所せままでさむひらける

して
 抱ん車は様どにはむ時めく葵の上乃
 わか
 車とて人をさむひらけ立發ぎたるそ中
 して
 牙ハ小車のなる方もなくと書きて立置
 たる 車乃前後よ なる
 上
 人を様よあつまつ人だまひのおくふ
 をしやまきて抱ん車は力もたなき乃

福ぞとひまふしきしほなヤラかふバ何事ハニ

も報ひれハニ好よももハニきハニト刃ハハニ野牛ハニ

乃小車ハニのめぐりハニくハニきハニそハニいつハニとハニぞハニ妾執ハニ

をハニ杖ハニをハニ踏ハニかハニくハニ昔ハニよハニゆハニるハニ花ハニのハニ神ハニ

^上月ハニよハニとハニくハニきハニきハニ一ハニきハニ我ハニ奔ハニ神ハニ此ハニもハニ乃ハニ

月ハニとハニ昔ハニやハニさハニふハニしハニんハニ霧ハニ影ハニ淋ハニくハニもハニ幾ハニのハニ

下ハニおハニ森ハニ乃ハニ下ハニおハニ露ハニ身ハニ此ハニ是ハニ所ハニとハニ夜ハニむハニ

うハニのハニ庭ハニのハニたハニまハニまハニあハニのハニ余ハニはハニみハニぞハニ

習ハニるハニ氣ハニもハニかハニりハニあハニるハニ小ハニ紫ハニ垣ハニ

日ハニおハニ赤ハニさハニしハニしハニとハニさハニきハニ一ハニ我ハニもハニ昔ハニ人ハニもハニたハニ

あハニ乃ハニ世ハニもハニあハニりハニゆハニくハニ初ハニなるハニ小ハニ誰ハニれハニ使ハニあハニ

きハニるハニ心ハニあハニいハニしハニてハニ風ハニ流ハニるハニるハニ聖ハニれハニ宮ハニ

乃我まぐら^ハ後^ハた^ハる^ハま^ハハ^ハ舞^上愛^ハま^ハな^ハより
 天^ハあ^ハく^ハも^ハ神^ハ風^ハや^ハ伴^ハ勢^ハ此^ハ肉^ハ卵^ハ乃^ハ鳥
 居^ハも^ハ出^ハ入^ハま^ハぐ^ハら^ハと^ハ生^ハ死^ハの^ハ乃^ハを^ハ神^ハハ^ハう^ハけ
 ま^ハや^ハら^ハあ^ハし^ハん^ハと^ハ又^ハ車^ハも^ハ赤^ハの^ハり^ハて^ハ火^ハ宅^ハ乃
 門^ハを^ハや^ハ出^ハぬ^ハら^ハん^ハ火^ハ宅^ハ

昭和十一年七月廿五日印刷
 昭和十一年七月三十日發行

定價金五拾錢

著者權所有

著作者 寶生新

東京市下谷區上野櫻木町四十八番地

發行兼印刷者 江島伊兵衛

發行所 下掛寶生流謠本刊行會

終

